

親切運動の取組について

学校名 南砺市立福光東部小学校
児童数 242名

1 親切運動の取組の紹介

(1) ボランティアデー

例年、企画・ボランティア委員会が中心となり、毎月2日間、アルミ缶と牛乳パックを回収している。今年度のボランティアデーの目的は、話合いの末、「ありがとうがいっぱいの学校にする」と決まった。アルミ缶等を持ってきてくれた子供たちに「ありがとう。」と伝えることを意識して活動した。また、一人でも多くの子供に協力してもらえるように、集まったアルミ缶と牛乳パックを数え、給食時に放送で呼びかけた。すると、少しずつ活動に協力してくれる子供が増えてきた。



(2) あいさつ運動

1学期は、企画・ボランティア委員会が中心となり、明るい挨拶ができる学校を目指して、挨拶運動を行った。時には地域の方や吉江中学校の生徒も参加し、一緒に行った。2学期には6年生が中心となり、挨拶運動を行った。12月になると、学校のリーダーである6年生が中心となって、明るい挨拶ができる子供が少しずつ増えてきた。しかし、挨拶されても返事をしない子供もいることから、活動を継続する必要がある。



(3) ありがとうウィーク

企画・ボランティア委員の提案で、ボランティアデーと同様、ありがとうがいっぱいの学校を目指して、12月にありがとうウィークを行った。全校児童に用紙を配付し、日頃のありがとうの気持ちを伝えたい人に手紙を書いてもらった。回収した手紙は玄関前廊下に掲示した。また、委員が各学年1名の手紙を選び、放送で紹介した。友達や家族、担任の先生、中には家で飼っている動物に宛てた手紙もあり、多くの子供たちが熱心に手紙を読んでいた。委員の子供たちは、「みんなが一生懸命手紙を書いてくれてうれしく感じていた。また来年もやりたい。」と話していた。



2 親切運動に取り組んで

企画・ボランティア委員会や6年生が中心となって活動したことで、多くの子供たちが「親切にすること」について関心をもつことができた。しかし、活動が終わると挨拶が暗くなったり、良くない言葉遣いで話したりする子供もいる。子供同士が日頃から親切にし合うことができるよう、活動を今後も続けたい。